

東京都特定給食施設等栄養改善知事賞

印刷 更新日：2025年1月7日

東京都における給食施設の水準の向上を図ることを目的とし、優良な特定給食施設及び栄養士に対して感謝状の贈呈を行っています。

2024年度

感謝状贈呈施設

社会福祉法人敬愛学園 多摩境敬愛保育園（東京都町田市小山町4464）

敬愛保育園理念『「人を敬いすべてのものを愛む」敬愛の精神に基づき児童の現在と未来の幸せのために一人一人の人格を尊重した最善の保育をします』に基づき、職員が一体となり食育に取り組んでいます。



多摩境敬愛保育園の園長先生、管理栄養士、栄養士の皆様

栄養改善事例

＜残食へのアプローチ＞

野菜の残食が目立つ日があり、野菜の活用や偏食指導等のアプローチを行ってききましたが、継続的な改善が見られなかったため、SDGsの観点から段ボールコンポストを導入し、給食の残飯や廃棄する食材をコンポストに入れて毎日観察を行いました。また、日々の給食で使用する食材をちぎったり、皮をむいたりする活動を通してSDGsの観点から食べられる部分、食べられない部分を分ける作業を子ども自身で行う活動も取り入れました。コンポストを毎日観察することで、SDGsへの関心が向き、継続的に残食への意識が高まる活動となりました。その結果、「生ごみを減らそう」と給食を食べている様子が見られるようになりました。



写真

＜偏食や好き嫌いへのアプローチ＞

偏食や好き嫌いが激しい子どもが見受けられ、そのような子どもへのアプローチとして、栽培活動に着目しました。何を栽培するかクラスで意見を出し合い、子ども主体で考え、ピーマンに決定しました。給食に出るピーマン料理をクイズと共に掲示したり、子ども自身でピーマンを使った料理を調べたりすることで食べる意欲を高めました。収穫したピーマンをどのように食べるかも子どもたちで決めて、クッキング活動を行いました。栽培活動終了後もピーマンへの関心は継続し、給食で提供したピーマンの肉詰めを家でも作りたいと子どもから保護者へ声があり、家庭との連携も図ることができています。

他に、わくわくシートを活用した子ども主体の保育を実施して、子ども自身がどのようにして食べたいか決められるように環境を整えています。ただ育てて食べるという活動ではなく、そこに子ども主体の活動を盛り込むことで、偏食傾向の子どもも意欲的になり、改善に向けて取り組むことができています。栽培活動を通して、食材に関心を持ったことで、栽培した食材以外にも関心が高まり、偏食改善にむけて良い活動となっています。

■ [東京都特定給食施設等栄養改善知事賞ホームページ（東京都保健医療局）（外部サイト）](#)